

いまばり夢学校 2007

第2・3回企画会議報告

日時；平成19年5月13日（日）13：30～18：45
5月27日（日）9：00～16：30
場所；今治市民活動センター（別宮町8-1-55）
参加者；学生スタッフ12名

「いまばり夢学校」は市民活動団体と学生スタッフが計画段階から主体的に参画することを願い、展開します。願いの実現のために最も重要な手法の一つが、学生スタッフが市民活動団体に行なうヒアリングです。提案いただいているプログラムの中身はもちろん大切な要素ですが、市民活動団体と学生スタッフの初対面となるヒアリングでは、両者の「思い」を理解し合うことに重点をおきました。入学している子ども達を支援する立場にある者同士が、よりよく「知り合う」ために「聴き合う」時間となりました。

1. ヒアリングの準備

①市民活動団体と学生スタッフの関係性の整理

現在、市民活動団体から9つのプログラムが提案されていることを伝えました。学生スタッフはどんなプログラムの内容が寄せられているのか、興味津々の様子です。ここで改めて、企画はアイデア段階で、実現と成果創出に向けて企画を構築していくのは、私たち達の役割であることを確認しました。



②プログラムの内容に求めることのイメージ化

市民活動団体のパートナーとして、学生スタッフには入学してくる子どもの目線に立った提案力が求められます。ヒアリングの準備として、2，3人の座談形式で、子ども達にとって魅力的なプログラムとはどんな内容かを話し合いました。

複数の方が一緒に企画を進めていく場合、目的共有が最も重要なことの一つです。ヒアリングは、市民活動団体の思いを聴き、信頼関係を育むことが第一の目的ですが、同時にパートナーである学生スタッフの思いを伝えるチャンスでもあります。自らが「いまばり夢学校」で実施したいプログラムのイメージを持つことが、ヒアリングの質を向上させることにつながると考えます。

子ども達にとって魅力的なプログラム

- みんなでできるプログラム
- みんなが仲良くなれるプログラム
- みんなが協力できるプログラム
- そのためにグループで進める形式があればいい！
- 子ども達に分かりやすいプログラム
- 小学校3年生にとっても分かりやすいものがいい！
- 一方的に教えられるプログラムではなく、学びあいがあるプログラム
- 新しい発見があるプログラム
- 今治市の子ども達が興味を持つプログラム
- 興味は人それぞれ。どうやって確認するの？！
- 「夢」のあるプログラム



③ヒアリングの練習（ロールプレイ）

ヒアリングの目的やすすめ方を確認した後、過去の「いまばり夢学校」を題材に、ヒアリングの練習を行ないました。友達の応対の様子を見て、気をつけたいことや改善点が積極的に出されました。

目的 プログラムを選ぶ時の判断の材料を集めよう！

- ・応募した思いやプログラムの内容を確認しよう。
- ・これから自分達と一緒に企画をしたいと思うのはどんなプログラムか考えよう。

気をつけたいこと

- ・自分達も緊張しているけど、大人も緊張していることを忘れないようにしよう。
- ・自己紹介はフルネームできちんとしよう。
- ・大きな声で自信を持って質問しよう。
- ・一人1回は質問をしよう。
- ・プログラムのイメージができるように体験できることは体験させてもらおう。
- ・相手に共感しよう。
- ・視線に気をつけよう。
- ・話しやすい雰囲気をつくり、沈黙をなくそう。
- ・記録をとろう。（聞くグループとメモをとるグループに分かれる）

2. 体験型ヒアリング

学生スタッフは、聞くグループと記録するグループの2つに分かれました。2グループがローテーションしながら、プログラムを提案くださった団体それぞれに、20分間ずつ応対しました。団体の皆さんは、提案の背景やプログラムの内容を伝える資料や道具を準備してするなど、工夫が見られました。

日常生活の中で、家族や学校・塾の先生以外の大人と付き合う機会が少ない子ども達にとって、知らない大人たちとのコミュニケーションはとても貴重な経験となりました。初めは高い緊張感が見られた子ども達ですが、雰囲気づくり、質問を出す間合いなど、ヒアリングのスキルが高まっていく様子が分かりました。

（主な質問）

- ・どんなプログラムを考えていますか？
- ・「いまばり夢学校」へ応募した動機は何ですか？
- ・プログラムの魅力は何だと思えますか？
- ・小学3年生にとって難しくないですか？
- ・誰でもできますか？
- ・選ばれたプログラムは、実現に向け、私たちも一緒に企画をします。
どんな関わりができますか？
- ・私たちスタッフはどんな役割をしたらいいですか？
- ・最後に伝えておきたいことがあればお願いします。
- ・子ども達に守ってもらいたいルールはありますか？



①大島ゆめゆめキャンプ
(できかけ教室)

新しい人、古い人、古くなりかけた人のコミュニケーションを大切にしている「できかけ教室」を舞台に、一泊二日のキャンプをする。調理実習やテント張り等の基本的な活動をしなが、表現的な活動(ワークショップ)を展開したい。時代の一步先を捉えている「夢学校」は「できかけ教室」のコンセプトと共通している部分がある。自分の専門としていることを教えるのではなく、みんなと実験をしていきたい。スタッフが中心となって子ども達の活動を組み立て、スタッフ自身が担っていく活動となる。この企画を通して、スタッフの成長を願っている。



②おいしい「しまなみ手打ちうどん」をつくって食べよう!
(いまばり男子厨房に入る会 (OB会))

小さい頃に食べた手打ちうどんの味が忘れられない。食が細かった自分の子どもに、「あの味を食べさせたい」と工夫を重ね、「しまなみ手打ちうどん」を生み出した。このおいしさを自らの手で作りあげ、自信にして欲しい。自分の手で作りあげたうどんは本当においしい。スタッフと一緒にうどんづくりを経験して欲しい。また、時間があれば道具搬入などから手伝って欲しい。日頃は、男性が率先して料理をして欲しいと、男性料理教室を毎月1回実施している。家庭内では妻に頼りがちな男性が多い。夫婦が共同で生活できるようになって欲しい。



③おもいっきり、和太鼓
(菊間太鼓保存会 鼓菊連)

和楽器を備えている学校は少なく、子ども達が日常的に和楽器に触れる機会ほとんどない。また、自分が子どもの頃にはあった地域の人との触れ合いがないことも危惧していた。菊間太鼓保存会として、菊間町の子ども達と和楽器に触れ合う活動を展開しており、この活動を合併した今治市全域の子ども達に広めたいと「夢学校」に応募した。スタッフはグループになる子ども達のリーダー役として、指導者の言葉の伝達、まとめ役を担って欲しい。次第に音が揃い、一曲を完成した時の達成感、仲間との連帯感を味わって欲しい。



④老人クラブは何のために何をしているのか
(今治市大西地区大井浜老人クラブ)

子どもと接する機会が少ないので、今回の応募はいい機会だと思う。郵政省に勤め、10年前に郷里に帰ってきた。地域の役に立つことは何でもしようとする取り組み、現在、老人クラブの会長をしている。プログラムでは自己紹介を兼ねて、食糧難を生き抜いた経験を伝えたい。また「明るく・楽しく・元気よく」をモットーにしている老人クラブの役割を伝えたい。老人クラブは、60歳からの人生において大切な役割を果たしている。スタッフの皆さんのご意見を聞き、話す内容や時間配分を決めたい。資料の中に使う漢字はどんなレベルにすればいいか助言も欲しい。



⑤エンジョイウィルチェアバスケットボール
(愛媛車いすバスケットボールクラブ)

「車いすバスケットボール」を一人でも多くの子ども達に体験して欲しいと思い、応募した。今、「車いすバスケットボール」は障がいの有無を問わず取り組んでいる。ルールや道具を工夫することで、誰もが楽しめるスポーツである。選手やスタッフとの交流を通して、何かをつかんで欲しい。関心を持った子ども達が、夢学校卒業後も継続して取り組んでくれることを願っている。スタッフの皆さんが率先して、プログラムの提供者になって欲しい。選手はその応援をすることができる。



⑥自閉症って知っていますか？
～違うことが当たり前！違うことを楽しもう～
(ライフサポート ここはうす)

目に見えない障がいと言われる自閉症の子ども達の支援をはじめて10年になる。家族など狭い範囲に留まりがちな活動を広げたいと思い応募した。障がいがあっても少しの「工夫」で買い物、食事、仕事もできる。自閉症の体験を通して、その気持ち、大変さを理解し、求められる「工夫」を話し合いたい。例えば、話し言葉の発信が難しいので、カードを活用して、自分の気持ちを伝える「工夫」を取り入れている。スタッフには体験コーナーづくりへのアイデア出し、子ども達がまちへ繰り出す時の雰囲気づくりを担って欲しい。



⑦お寺の学校～お接待の文化と癒しの心～
(みかんトリオ)

四国ならではの財産である四国遍路の文化、目に見えない精神世界を伝えたいと思い、3人のお坊さんが集まって応募した。色々な背景を抱えてお参りにきているお遍路さんに、地元の私たちがすることはたくさんある。しおり、バックのプレゼント、紙芝居など、ちょっとした幸せをプレゼントできるお接待の方法をみんなに企画して欲しい。今、子ども達もストレスを抱えている。お接待をすることを通して、自分のためだけでなく、他の人のために何ができるか学び、「心」を学んでもらいたい。



⑧劇塾
(未来演劇K-プロジェクト)

「市民演劇」のプロデュースをする中で、子ども達と接する機会が増えてきた。演劇を通して、伝えることが苦手な子ども達に得てもらいたい要素がたくさんあることに気づいた。ゲームや発声練習を通して、伝えること、人を観察する力を学ぶことがまずは第一歩。心と体の準備ができたなら、みんなで模擬の芝居をつくりたい。脚本、裏方、役者などの役割を分担し、準備をする。舞台を地域の人に観に来てもらっても楽しいかもしれないと思っている。一日を通して、「挑戦すること」、「表現すること」の楽しさを味わってもらいたい。



⑨家庭で出来る環境浄化
(NPO法人環境NPOあいネットワーク)

毎日の生活が、今、地球規模で起こっている環境問題を引き起こしてしまっている。未来のために、日常生活の中でできる環境をきれいにする取り組みをみんなに学んでもらいたい。地域の大人の秘伝を学ぶ「いまばり夢学校」の仕組みは面白い。「環境浄化微生物えひめA1」を普及する活動を、この学校で展開することは、今治市の子ども達にとっても、自分達の団体にとっても有意義だと思う。納豆、プレーンヨーグルト、砂糖など、みんなが知っている材料を活用して、スタッフも子ども達も一緒になってつくってみよう。

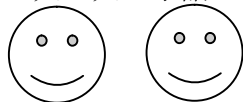
ヒアリングを終えた学生スタッフから、「9つのプログラムはどれも魅力がいっぱい。できれば全部したい。」と率直な感想が寄せられました。ただ、3回の実施が限界であるという時間的な制約（予件）があります。これまでみんなで確認、共有してきたたくさんの「大切にしたいこと」を思い描き、選考の方法や議論・作業に使う時間までも自らが決めていきました。選考に要した時間は4時間に及びました。少数意見も取り上げ議論を深めたこと、提案プログラムの内容を吟味し、コラボレーションできるプログラム内容はそれを模索したことなど、一つ一つの選考プロセスは彼らに大きな気づきをもたらしてくれました。また、この選考プロセスが彼らの主体性を育み、みんなの絆を深めました。多くの市民活動団体の皆さんが彼らの長時間の選考を見守ってくださったことも、大きな支えになったことと思います。

3. プログラムの選考の準備

①ボランティア活動としての「いまばり夢学校」

これから「いまばり夢学校」づくりを展開していく上で大切にしたいことについて、「ボランティア」を手話で表現することを通して考えました。募集チラシを見て自発的な意思で集まった学生スタッフに、今後も自分で決めて行動することを大切にしたいとメッセージが送られました。

○一人一人が手話で「ボランティア」を表現



(私)

(相手)

「私」が「相手」と出会い、
一緒に並んで歩いていく活動

- ・協力
- ・助け合う
- ・あたたかい
- ・一緒
- ・心と心のつながり
- ・みんなの心
- ・絆

○「相手」と共に歩む先にあるものは？

- ・共に決めた目標
- ・その目標を達成すること

* 「夢学校」の目標*

この取り組みを将来につなげるが大事

- ・新しい担い手ができる
- ・子ども達が地域に参画できる



②主催者の願い

開校して4年目となる「いまばり夢学校」。主催者である「今治NPOサポートセンター」の関係者は願いや期待を積み重ねてきました。その願いや期待を、学生スタッフのみんなと一緒に実現していきたいことが伝えられました。

- ・伝え、聞く（聴く）力をつけ、さらに発信する力をつけて欲しい。
- ・ポイントをおさえ、まとめる力をつけて欲しい。
- ・色々な変化や困難があっても、柔軟に対応できる力をつけて欲しい。
- ・新しい発想を生んで欲しい。
- ・「不思議」（発見や気づき）を大切にして欲しい。
- ・一人一人の関わりから生まれる何かを大切にしたい。
- ・みんなですっかり話し合っていて欲しい。
- ・生徒となる子ども達が主役であることを忘れないで欲しい。
- ・協力してくれる市民活動団体の方の思いを大切にしたい。
- ・「なぜ」市民活動団体の皆さんが地域で活動しているのか知って欲しい。
- ・みんなが市民活動団体の役に立てる機会であることを思って欲しい。
- ・真剣に活動する大人達がみんなの仲間であることを忘れないで欲しい。
- ・本物の体験をして欲しい。
- ・関わる人皆が対等であって欲しい。

③プログラムの選考ポイントの議論

提案されている9つのプログラムから3つのプログラムを選択しなければなりません。決めるためのルールについて、真剣な議論がなされました。

◆基本的な考え方◆

- ・提案してくれた団体の「思い」「願い」が大事
- ・主役である子ども達の「成長」が大事
 - * 「楽しい」活動かな
 - * 限られた時間なので「楽しい」だけではなくて、しっかり学べる活動かな
 - * 未来へつながる活動かな、継続が期待できる活動かな
- ・多くの協力者のことを考えることも大事

* 選考ポイント *

これまで、みんなで積み上げてきた議論を振り返り、以下の3つを大きなポイントとしました。

- ★よきパートナーであり、一緒に企画づくりができる団体
- ★夢学校でしかできないプログラム
- ★子ども達にとって魅力的なプログ

◆選択の方法◆

選考の様子を見学してくれる市民活動団体の方も含め、みんなが「納得」できる方法で選考したい。

- ①一人一人の意見を聞く → ②話し合う → ③数で確認する（多数決） → ④もう一度話し合う
- 他にも「くじ」、「力」、「じゃんけん」、「運」など、物事の決め方は色々あるが、みんなが納得できるよう、時間が許す限り、話し合いをしたい。

4. プログラムの選考

①個人の意思表示と意見交換

9つのプログラムのヒアリングを振り返り、一つ一つのプログラムの「メリット」「デメリット」をカードで出し合い、共有しました。みんなの意見を確認し、各自、3つのプログラムを選択、投票しました。ここは、全員が意思を示し、それを共有することに止め、選考は行ないませんでした。少数意見を汲み取るためです。

「メリット」「デメリット」の意見交換を進め、「デメリット」については、それを補う提案がなされました。それは団体の皆さんに代わって、学生スタッフがするプレゼンテーションさながらでした。

<p style="text-align: center;">①大島ゆめゆめキャンプ (できかけ教室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○しかってくれる ○心に残る ○思い出になる ○協力することの大切さを学べる ○協調性が身につく ○夢がある ○企画立案ができる ○プログラム内容が自分達で決められる ○子ども達主体で行動できる ○親元を離れ「自分で動く」ことを学べる ○言われなくても行動することの大切さが学べる ○子どもにも自分らのためにもなる ○子ども達も楽しめる ○スタッフが成長できる ×小さい子がホームシックになるかも ×「少年自然の家」とかぶる気がする ×役割を見つけられない子が出てくるかも 	<p style="text-align: center;">(5票)</p> <p>◆出された意見◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生が参加したいプログラムだ。 ・スタッフと子どもの触れ合う時間が長い。 ・しかってくれるという言葉にひかれた。 ・プログラムづくりへの参画度が高い。 ・デメリットは企画段階で改善すればいい。 ・ホームシックになるという心配は、スタッフが支えられる。 ・役割を見つけサポートできる。 ・協力しなくてはできない。 ・料理をつくる楽しさ。 ・「少年自然の家」みたいと反対したけど、みんなの意見を聞いて変わった。 ・「少年自然の家」は先生が企画したものだけど、自分達が企画できる点が違う。
<p style="text-align: center;">②おいしい「しまなみ手打ちうどん」をつくって 食べよう！ (いまばり男子厨房に入る会 (OB会))</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分でつくるうどんはおいしそう ○自分でうどんを打てる ○自分で作って食べられる感動がある ○うどんを作ることより「何かをつくる」ことが学べる ○うどん作りを通して私たちも子ども達と触れ合える ○一人一人のスピードに合わせてできる ○普段できない体験ができる ○体全体をつかっての体験だから子ども達が楽しめそう ○子ども達が家庭でも料理がつかれるようになる ○協力し合って一つのをみんなで作る ×何を学べるのか ×子ども達が参加するのは危険 ×自分達で打ったうどんをその場で食べられない 	<p style="text-align: center;">(1票)</p> <p>◆出された意見◆</p> <p style="text-align: center;">ーコラボレーション企画を模索ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お寺の学校」のプログラムと充分、一緒にできるのではないか。 ・時間的なイメージもできる。 ・「お接待」用のうどんと、自分達が線引きすることが大事。 ・コラボレーションをする上での課題はあるかもしれないが、「お寺の学校」をすることが決まったら、一緒に実現したい。

<p style="text-align: center;">③おもいきり、和太鼓 (菊間太鼓保存会 鼓菊連)</p> <p>○気持ちがいい ○一曲完成した時、達成感が味わえる ○一つのことをやり遂げる喜び ○おもしろそう ○日本の文化が体験できる ○ストレス発散 ×限られた時間で一曲完成するのか? ×子ども達の興味がわくのか?</p>	<p>(4票)</p> <p>◆出された意見◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「興味がわくか心配」ってあるが、見たことがないので興味はわくと思う。 ・普段出来ないことだ。 ・体感することはよい機会だと思う。 ・みんなの努力次第で一曲は完成すると思う。 ・もし1曲、完成しなくてもいい。完成することだけが目的ではない。 ・経験者として賛成した。苦勞もしたし、最初は不安があったけど、それをこえると本当にしばらしい。いい体験だと思う。 ・導入は難しいかもしれない。何事もやってみることが大事。
<p style="text-align: center;">④老人クラブは何のために何をしているのか (今治市大西地区大井浜老人クラブ)</p> <p>○昔の話がたくさん聞ける ○知恵が得られそう ○人生の先輩として自分の知らないことを教えてもらえる ○おじいちゃん、おばあちゃんがない子が関われる ○年齢差のある人と交流できる機会 ○世代を超えて交流できる ○お年寄りの人への見方が変わる ○お年寄りの方へ優しくなりそう ○高齢者の気持ちがわかる ○老人クラブについての理解 ×話を聞くだけ? ×3時間も話を聞き続けることは難しいかも ×小さい子は話だけでは分からない</p>	<p>(0票)</p> <p>◆出された意見◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話だけではしんどい。 ・話だけでは、話した側の達成感しかないような感じがする。 ・話だけでは、子ども達には残らないと思う。 ・3時間の中身をもっと考えたい。昔の遊び、ゲートボールなどを取り入れられれば、面白くなると思う。 「静」→「動」にしたい。 ・もっといろいろな提案ができる。
<p style="text-align: center;">⑤エンジョイウィルチェアバスケットボール (愛媛車いすバスケットボールクラブ)</p> <p>○バスケットボールを改良したものなのでおもしろそう ○新しいスポーツとの出会い ○車いすの大変さ、苦勞が分かる ○体力づくりになるかもしれない ○学校ではできない体験 ○同じ種目を体験する中で障がいに対する理解が芽生える ○いつもと違う視点でバスケットをすることで世界が広げられる ○障がい者は特別ではない ○障がいのある人との関わり ×転倒時の安全面 ×差別(いじめ)の可能性</p>	<p>(1票)</p> <p>◆出された意見◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全面の心配があったけど、前の経験上、そんなに危なくないと思う。 ・バスケットというゲームだけではなく、車いす利用者、車いすのことが学べる。 ・「車いす」を学ぶ機会になる。いつ、誰が事故にあうか分からない。

<p>⑥自閉症って知っていますか？ ～違うことが当たり前！違うことを楽しもう～ (ライフサポート ここはうす)</p> <p>○自閉症の子ども達と交流できるよいチャンスである ○自閉症という障がいの壁をこえての交流 ○理解が深まり、団体にも有益 ○自閉症への理解を深められる ○思いやりの心が育つ ○あまりできないことができる ○少しの工夫でどんな障がいとも向き合えることが学べる ×小学生に理解できるのか ×子どもの行動で、自閉症の人達がパニックを起こさないか</p>	<p>(5票)</p> <p>◆出された意見◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パニックを起こさないか心配という意見があったが、パニックを起こさないように気をつけるのはスタッフの役割だと思う。 ・子ども達が買い物に行けるか心配。 ・逆に自閉症の子ども達から学べると思う。 ・偏見やいじめがある。小さい時にきちんと理解できる機会がいると思う。 幼少の頃に気づく機会＝子どもの成長 ・マンガの知識しかないから知りたい。 ・まず経験→将来、意味に気づくことができる。
<p>⑦お寺の学校～お接待の文化と癒しの心～ (みかんトリオ)</p> <p>○ストレス社会を生きる技をつけられる ○言葉遣いを学ぶ ○自分に必要なものだと思う ○忍耐力がつく ○ふれあいのない人との交流 ○今治ならではの「お遍路さん」を理解できる ○今治の「お遍路さん」と交流できる ○地元四国を知る ×子ども達にとってちょっと暇かも</p>	<p>(4票)</p> <p>◆出された意見◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お寺だから学べることがあると思う。 ・学校の帰りによく道を聞かれる。何をしているかよく理解していないので、知りたい。 ・知らないままお遍路さんに接するよりは、ちゃんと知った方がいい。 ・歩いた経験があり、お接待を受け、「うれしい」思いをした。互いが「うれくなる」経験をしたい。 ・各県から訪れる様々な思いや考えを持ったお遍路さんに触れ合うチャンスだと思う。
<p>⑧劇塾 (未来演劇K-プロジェクト)</p> <p>○自分を表現することの楽しさに気づく子が出てくれることを期待する。 ○創造力の向上 ○表現力をつける ○コミュニケーションの勉強になる ○積極性が身につく ○明るくなる ○劇が体感できる ○私達も裏方として協力できる</p>	<p>(3票)</p> <p>◆出された意見◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験者として、このプログラムを一番に勧める。想像以上の体験の場だと思う。 ・「劇」はめったにできない貴重な経験になる。 ・人前で話すことはみんなにとって大切。 ・難しいし、緊張するからこそ大事。達成感がすごいと思う。 ・苦手な子が多いと思う。スタッフが雰囲気をつくってあげれば良いと思う。 ・裏方の経験も貴重だと思う。
<p>⑨家庭で出来る環境浄化 (NPO法人環境NPOあいネットワーク)</p> <p>○自分でも環境のために何ができるか気づける ○身近なことから始められる ○私達にとってとても重要なことで新世界である ○知らないことを学べる ○地球のために、子ども達のために学ぶことができる ○環境問題への意識 ○継続できる ○地球規模の問題に取り組める ○自分一人でも地球のために役に立つことがわかる ×作るだけ？ ×だいたいのは学校でならっているかも？</p>	<p>(4票)</p> <p>◆出された意見◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物の力が実験を通して分かる。 ・微生物の力に感動した。 ・持って帰ることができない。→企画上の課題 ・小さなことだけど、地球全体のことに関わる。 ・地球の乗組員として、やるべきことだと思う。 ・環境問題を実感、変化を実感できる。 心もすっきりすると思う。 ・学校の総合学習で経験しているかもしれないが、経験していない学校の方が多いと思う。 ・自分達の地元から日本、世界へ発信できることがわくわくする。

② 1回目の選考（他の人の意見を聴いて、再考）

議論を踏まえ、「デメリット」カードを書いた学生スタッフから「考えが変わりました」との発表がありました。ここで「考えが変わった人は移動しましょう」との提案がされました。

①大島ゆめゆめキャンプ	5票（決定）
②おいしい「しまなみ手打ちうどん」をつくって食べよう！	1票
③おもいきり、和太鼓	4票
④老人クラブは何のために何をしているのか	0票
⑤エンジョイウィルチェアバスケットボール	1票
⑥自閉症って知っていますか？	5票（決定）
⑦お寺の学校～お接待の文化と癒しの心～	4票
⑧劇塾	3票
⑨家庭で出来る環境浄化	4票

◆①大島ゆめゆめキャンプ◆

- ・投票をしていない人が納得できるなら、決定したい
- ・「今の子ども達は…」という意見があった。そんな子ども達の意識の改善を、たった一泊二日のキャンプで実現するのは無理だ。
- ・挑戦してみる価値はあるのではないか。経験をいかしたいと私は思う。
- ・一番の目的はスタッフの成長。プログラムを経験した結果、納得できるものがあるかも。
- ・全員納得して、拍手。



◆⑥自閉症って知っていますか？◆

- ・投票をしていない人も、納得して拍手。

③ 3回目の選考（これまでの議論を踏まえ、投票）

残りの7つのプログラムの中から、2つのプログラムに選択し、投票することにしました。意見が分かれてしまい、困惑する中、議論を進めました。

②おいしい「しまなみ手打ちうどん」をつくって食べよう！	0票
③おもいきり、和太鼓	5票
④老人クラブは何のために何をしているのか	0票
⑤エンジョイウィルチェアバスケットボール	2票
⑦お寺の学校～お接待の文化と癒しの心～	5票
⑧劇塾	1票
⑨家庭で出来る環境浄化	3票

◆⑧劇塾◆

- ・このプログラムをおすすめ意見を聞きたい。
- ・経験者としてみんなに勧めたい。
「百聞は一見にしかず」。

◆⑦お寺の学校～お接待の文化と癒しの心～◆

- ・これを選んでいない人の意見を聞きたい。
- ・自分が落ち着きがないので…。
- ・ピンとこないから…。

◆全体的な意見◆

- ・「お寺の学校」と「思いっきり和太鼓」が投票数が多いのでどちらかにしたらいいのでは。
- ・最終手段を言わないで欲しい。
- ・予定時間を過ぎてている。数で決めよう。
- ・みんなが納得していないし、少数意見のプログラムをここであきらめたくない。
- ・「お寺の学校」のプログラムで和太鼓ができないか考えた。でも、お寺は気持ちを落ち着かせるプログラムなので、どうしてもあわない。
- ・既に選んだ「大島ゆめゆめキャンプ」は自分達が企画できる部分が多いから、何かドッキングできないか。



④ 3回目の選考（これまでの議論を踏まえ、投票）

議論を踏まえ、もう一度、投票です。今度は、残りの7つのプログラムの中から、1つのプログラムに選択し、投票することにしました。別のプログラムに投票した仲間の意見を最後に聞き、納得できるかどうかを最後に確認しました。みんなの拍手によって、選考を終えることができました。

②おいしい「しまなみ手打ちうどん」をつくって食べよう！	0票
③おもいっきり、和太鼓	1票
④老人クラブは何のために何をしているのか	0票
⑤エンジョイウィルチェアバスケットボール	0票
⑦お寺の学校～お接待の文化と癒しの心～	6票（決定）
⑧劇塾	1票
⑨家庭で出来る環境浄化	0票

◆コラボレーションへの意見◆

- ・選択した3つのプログラムを主軸としつつ、コラボレーションすることで互いのプログラムがいかせるのであれば、積極的にコラボレーションを進めたい。
- ・先生に確認することが前提となる。難しい場合はあきらめたい。
- ・「①大島ゆめゆめキャンプ」の中で、「⑨家庭で出来る環境浄化」は実現できないか。
- ・物理的に難しい。「⑨家庭で出来る環境浄化」は、先生が普及のために協力をしたいと言われていた。「いまばり夢学校」で実現できなくても、有志で実現できる方法を考えよう。
- ・「⑦お寺の学校」のプログラムの中で、「②おいしい「しまなみ手打ちうどん」をつくって食べよう！」のプログラムは実現できないか。
- ・「⑦お寺の学校」のプログラムの提案の中で、「弘法大師が普及したうどん」という歴史があることを聞いた。歴史的背景も考え、コラボレーションの効果を感じている。是非、実現を考えたい。

5. 振り返り（学生スタッフの感想）

- ・今日は色々な人の話がきけてよかった。全部のプログラムのメリットが感じられる議論ができた。選んだプログラムはとても楽しみだ。
- ・本当にどれもいい企画で、全部やりたかった。なぜ、3回分しか選べないのかと思ってしまった。選んだ3つを、他の選ばれなかった企画の分まで楽しんで行ないたい。
- ・どれも楽しそうなので、全部やってみたかった。
- ・ヒアリングが全部聞けなかったけど、みんなが情報をくれて話し合えてよかった。自分達が選んだんだから、楽しみたい。また、自分達が決めたルールを守って、ちゃんとしたプログラムづくりをしたり、学んだりしたい。
- ・こんなにみんなと話し合い、一つになった気がする。次もお願いします。
- ・とても疲れた。
- ・こんなに真剣に話し合うとは最初思っていなかった。こういうふうにみんながまとまって、真剣になって、本当にうれしかった。リーダーとなってくれたメンバーが一番がんばってくれたと思う。彼のおかげだと思う。ありがとう。
- ・振り合えてみれば短かった。短かったけど、とてもいい話し合いができた。悩んだけど、3つの企画が決まって、これから動いていく。動いてみたら何か分かると思っているので、真剣に楽しみたい。今日は皆さん、お疲れ様でした。
- ・やってみたら分かるというのはまさにその通り。生徒として参加していたメンバーがスタッフになっており、彼らに引っ張って欲しい。(元夢学校スタッフのコメント)

学生スタッフの集中した議論に、見守る私たち大人も学ばせてもらいました。仲間の意見をしっかり聞き、その意見を真剣に受け止めて、自分の意見をまた返すという繰り返しの途中で、意見がどんどん深まっていくことを感じました。今日が「いまばり夢学校」の新たなるスタートの日です。ご応募いただいた9つの団体の皆さんの「思い」を忘れないよう、これから1年間、取り組んでいってくださることを願います。